

日本國體論 (上)

文學博士 二浦周行氏(速記) 朝廷の認めない私交である。

へも其次の將軍義持の時には是を謝絶して終つた。彼方を使者を遣へても受付けなかつた。

神國である。決して外國に對する臣を稱することはない。然るに

父の執前達が小泉といふ支那  
家に批かれて然ういふ失態を  
爲に神人共に怒つて天變地異

交通が其の時

對等の交通を開く  
開くな事實があつたか、怎うか

く分らぬが兎に角對照外交  
ふこまは謝絶して終つたの  
是以對等

は承知しない。實である。而して朝鮮の世に初めて隨の時に日本へ回禮使云ふ使

國書は諸君も御を寄越した。當時は幕府で

る所の天子てんし慈あはれ圖書としよに明あきらの永樂えいらく云いふ年號ねんごう

元來支那云  
て居た。成程朝鮮は明の  
であるから明の年號を用ゐる。

こは何等差支ないやうなものがあるが當時の幕府は

明の年號を用ゐる

臣下の禮を以て  
年號がある云ふて特に

を許さなかつた。元來朝鮮からして支那に属して居る

あるから年號は待つて居らるゝ  
佐野の中葉高麗の太宗

る所の天子進な  
るから對岸ミ  
に年號を設けたことがあ

夫れは二度程であつたが其  
の中頃は恰度支那が六朝の

で手が届かなかつたのを好んで

所謂<sup>いわゆる</sup>火事泥<sup>かすひ</sup>云<sup>い</sup>

て年號を用ゐて居つたので  
高麗の時には金國の勢ひが

なかつたからであらうが是  
暫らく年號が立つて居つた。

其處で遣唐使  
し其の後唐が盛になつてから  
又年歲を用ゐないこととな

は今日迄一も終つた。夫であるからして

云つた支那の居た云ふことは單に朝鮮の

私交であつて是れを支那へ  
支那は宗主國の權利で決

打乗つて置け

あるから、然して居る云ふことが支那の

延へ聞へるのは非常に苦しい  
こであつたのである。是畢

支那は欣んで鮮の外交が事大好隣に陥つて

日本は曾て外國

日本民族の

大陸生存權

文學士 藤田喜作

いた其時に明か  
 王さす、即ち明  
 じた所の國群を  
 伊し人間の有して居る性慾（ロマンティック）之  
 ふもの本能慾といふものは強

時は矢張り此方遊戯的娛樂的のみに動くもの  
明に對して臣さはない。人類の二大本能である。

唯私に修したこ  
滿は其時には征  
自己保存の本能と共に種族

もなき。唯義滿も強く働いて居るものであ

つたのであつてに食物の制限をする或は自分

[illegible]

漢文講義錄

**職業**

專賣特品、單價優美、遠近男女老幼無不稱讚。其一切貨物與本會所售之貨無異。每日三圓有贈品者。請向本會索取。誠心歡迎。

大正九年九月八日 豐國商會

第十回新學期  
六回講義錄是現代漢學界之泰斗服部宇之助博士外三博士學士教授十二名邦血を騰がれたる本邦唯一の講義録

講師の優秀内容の充實は本會の特色

**東京自動車學校**

總理 山田次郎 校長 山田次郎 教授 山田次郎

**東京工學學校**

校長 山田次郎 教授 山田次郎

**工學講習會錄**

山田次郎 著

### 合併公告

大正十年三月十三日 日魯漁業株式會社  
輸出食品株式會社 堪察加漁業株式會社  
社會各臨時株主總會ヲ開キ日魯漁業株式會社ハ輸出食品株式會社ニ合併スルことを議決シ其權利義務一切ヲ承繼シ輸出食品株式會社ヲ解散ス此後日魯漁業株式會社ハ解體スルノ決議致候ニ付右二對シ御異議有之候債權者ハ大正十年五月十六日迄ニ御申出相成度此段公告致候也

大正十年三月十四日  
函館區神濱町六番地  
**日魯漁業株式會社**  
東京市日本橋區本町一丁目三番地  
**輸出食品株式會社**  
東京市日本橋區小網町一丁目一番地  
**堪察加漁業株式會社**

## 月鮮の旬ひ

紀行 ロマンス 偵探 時評 美術 宗教 田園 可能に渡る  
電五七 電話 貳三三號本町 其他の各方面に於ける  
カクシヤ書齋

## 文藝俱樂部

### 四月號

此の面白さ  
花やかさ

- 四十一年目の仇討 松魚
- 新作 次郎長の眼 東菊
- 長編 日進上人 如杏
- 若き伯爵と女優 落款
- 最後の金色夜叉 仲長彦田
- 元日の海賊 船中衛村
- 人情妖術 婦長谷川雨村
- 五人女奸計發覺 伯謙知軒
- 谷底の死骸 西村男村
- 小説美榮子 櫻路類十七八
- 粹客泥棒 常作活惚大森
- 愛慾と不良少女 寄部梅みの妙藥
- 白痴の正義 實説蒲里時次郎
- 花柳界秘録無蓋 講談ちぎれ雲
- 出世の近道 六拾錢 櫻根牛
- 海上龍宮殿 東京白石町博文館

### 極朝顔種分讓

太鼓歌 廿四節 拾八十五  
夕飯歌 廿四節 拾八十五  
八四節 手代用一節 拾八十五  
夕飯歌 廿四節 拾八十五  
夕飯歌 廿四節 拾八十五

### 正獨逸五言詩

### 新獨逸から試みに本講義の第一輯

[illegible][illegible]























ては其の内容が當牛購入或は  
賣出の價格、利率の費用に充  
てられ、又は購買組合の如きも  
等に於ては、金の如きも三十圓掛  
りにて掛金、一口一圓手口等  
云ふ如き契約のものもあり其  
數も無慮千以上に上るべし

鮮棉賣行弗々

前年末に於ける各通米豆  
數を見るに、米七十五萬  
十三呎、白米八千二百六十八  
百六十六千八百七十八呎、  
白米三千六百八十七呎、  
五萬二千四百四十七呎、  
十五萬八千八百八十八  
十五、各數

今五百圓以上三步に千圓以上三  
步二千圓以上四步三千圓以上五  
步四千圓以上六步五千圓以上七  
步に改められたき旨出願したる  
に對し其の後未だ何事の指令に  
接せず爲め更に請願の意を徹  
底に努むべき體諒中なりと而し  
下級生組合員は京城廿八龍山四  
人其他七十人なり

[illegible]

大目付直藏である。  
 阿比は常物の一員目録に於て、證券  
 業に就ては廣く一般希望者、同組合  
 應ずる計畫をなせること、は朝鮮  
 の富元化をなせる包と見做す。

問ふなれば、たゞ「資金の不足を、渡代に  
関係、換手金に於て資金の不足を、付  
け、或は市場を悩ませむるの因を  
爲すや」と、唇に齒さ、矢張りある。

然し乍ら、信託会社の機能を遺憾なく  
發揮せしむる者は、資金の調停を唯一  
の必須條件となすは、固ら資金に理事者  
に其の人をさへ得ば、資金事務の如き  
は、第の二問題なりと思惟するに何人  
ある、或は此をば一上思惟するに何人  
一上、一上の上を背に能はざるべし  
よ、一上、一上の金を盛るは百者  
よ、之の如き、若し如此、則ち  
よ、之を止むるの良策、若し如此、則ち

[illegible]

豆 内地各方面穀價不引立  
の折損にて支拂調ひの極  
氣を運みたるが荷主側は極  
の爲め相場の下足を支へ今朝  
状態に見送る風情甚だ重なり  
俟江筋出穀薄

に於ける漢江回節の出穀は一  
得に於て出廻り不振を呈し  
其甚固に付ては同々たる  
年終米相場には京に商人  
仲買に致さるを托し盛んに奥地  
を行なつものなるも昨年来  
に於ける客金の枯乏を以て

東京 六  
兵庫 三  
發名 二  
熊本 一

倫敦銀現  
二十鎊安  
四十三日  
三月八日  
四月三日  
五月

携客付  
 14:00  
 14:30  
 15:00  
 15:30  
 16:00

前席大引  
 14:00  
 14:30  
 15:00  
 15:30  
 16:00

越三十二片内分の一米綿

三六五  
 三九三  
 三六五  
 三六五  
 三六五

大阪 三二七  
 下關 三二七  
 三六五  
 三六五  
 三六五

御注意  
 託付受ケ  
 二二二  
 二二二

無廣  
 各店  
 活用  
 各店  
 各店

[illegible]

店主の時  
以上十時  
大牛通一丁目二十番

議受  
而談は夜間  
大牛通一丁目二十番

金融  
並に低利信用貸金  
京坂太田通二丁目  
福田印刷所前

不動產及電  
本町三丁目

及果樹園一丁  
反一目新築  
電燈

電話 三二九



本店大阪東區瓦町四丁目